

## リサイクル品は排出事業者に戻す 富山で進む「受託型」、原料高に対応

2026/3/5 4:00 | 日本経済新聞 電子版

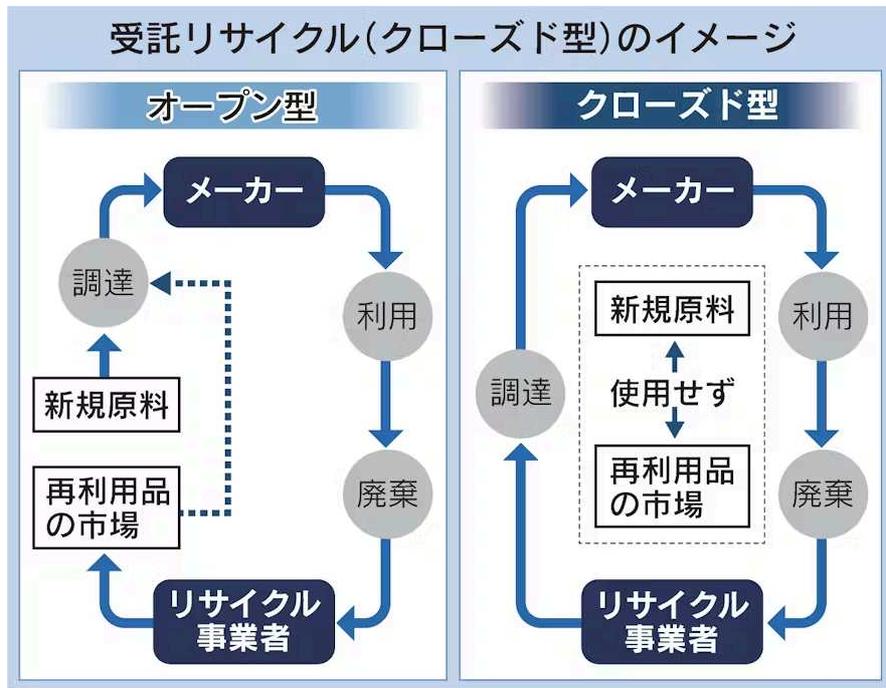


エムダイヤの太陽光パネルの切断装置。廃棄物に応じて専用のリサイクル機械を製造販売する

自動車部品メーカーなど製造業から排出される廃棄物を再生材にして、その事業者に戻す「受託加工リサイクル」が富山で進んでいる。環境対策としてリサイクル材の活用が求められるなか、組成が把握できている安心感がある。レアメタルなど希少材では調達コストを抑え安定確保に役立つ。

リサイクル機械製造のエムダイヤ（富山県滑川市）は1月から、受託加工リサイクル事業に乗り出した。第1弾は自動車部品メーカーから請け負い、部材に使った合成ゴムの端材や不良品となった廃棄物を回収する。同社製の分離破碎機を活用してゴムや金属などに分け、有効利用できる素材を排出したメーカーに直接戻す。月間十数トンを受け入れている。

製造業からの廃棄物のリサイクルには、「オープン型」と「クローズド型」の2通りある。オープン型では、リサイクル事業者は加工した再生材をリサイクル品市場に卸して、排出事業者以外にも広く提供される。クローズド型は再生材を排出事業者に戻すもので、受託加工リサイクルはこれに相当する。



リサイクルを推進する製造業では原料調達にあたり、新規原料と再生材を組み合わせる。再生材の調達は、現状では大半がオープン型だ。相対契約が必要となるためクローズド型は少ないものの利点は2点あり、一つは利用する際に安心感がある。自社の廃棄物由来のため組成が把握できる。鉛を含まないなど、製造基準に合わせた再生材を確保できる。

もう一つが原料調達コストを抑え原料の安定確保が期待できることだ。一般的に再生材価格はリサイクル費用がかかり、新規原料より高い。ただ、銅やアルミなど各国で需要が高まり新規原料が高騰した場合、再生材は相対的に安価となる。再生材の引き合いが強まった場合も、クローズド型は一定量を確保できる。

「今後、レアメタルなどが高騰した場合は、安定確保を目的に受託加工リサイクルが増えるだろう」。エムダイヤの森弘吉社長はこう指摘する。本業のリサイクル機械の製造販売では、大手家電メーカー系のリサイクル事業者にはレアメタルのタンタルを回収できる設備を納入した。「紛争鉱物」と呼ばれアフリカの紛争地が主産地のため供給リスクに備えた動きだ。

「受託加工リサイクルは、事業者の技術力が問われる」。樹脂原料販売の丸喜産業（富山県高岡市）の小園雄治社長はこう語る。同社は樹脂リサイクルを手掛け9割がオープン型でクローズド型は1割だが利用相談も目立ち始めている。クローズド型で求められる再生材は、排出事業者の厳格な製造基準に合わせたものが多く、特注品への対応力が欠かせない。



丸喜産業では廃棄された樹脂を再加工してペレットにする高い技術力を持つ

例えば樹脂。透明な状態で製品化されているが、リサイクル段階で黄色に変色することが多い。廃棄物を粉碎・溶融して押出機でペレットにする課程で、熱のかかり具合を微調整して黄変を防ぐ。押出機のスクリューの構成を部材組成にあわせ、回転速度や温度設定を変更するなど繊細な作業となる。

オープン型では安価な汎用品が主体となるが、クローズド型で高機能品を扱うことが多い。最終価格が高額となる分、リサイクル費用を吸収しやすくなる。「課題はコストを下げるため、いかに取扱量を増やしていくかにかかる」（小園社長）という。

レアアースでは中国からの輸入依存を軽減するため、環境省が2026年度からリサイクル支援に乗り出す。保管施設や抽出後の検査設備などの費用を補助するものだ。ただ、現状ではネオジウムなどリサイクルが進んでおらず、技術確立から始まることもある。

当初はリサイクル費用が高額になることも想定される。金属再利用の日本総合リサイクル（富山県高岡市）の高倉康氏社長は「欧州のように、リサイクル品は割高であることを受け入れる土壌づくりが日本にも必要になる」と語る。顧客と二人三脚でニッチ分野をきめ細かく扱う受託加工リサイクルはその一助となりそうだ。

（伊藤敏克）

#### 【関連記事】

- ・ [車向け再生プラ供給網、富山が拠点に名乗り 三井化学・自動車と協業](#)
- ・ [富山のリサイクル機械企業3社が連携、廃棄物の有効活用目指す](#)
- ・ [銅リサイクル、可視化で高効率へ 富山の黒谷と東京大学](#)
- ・ [廃棄モーターからレアアース抽出 運送・保管・検査を環境省が補助](#)

## 地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら